

# 完了後の評価個表

整理番号 1-1

事業名	森林居住環境整備事業	都道府県	新潟県
地区名	ひがしかんばら 東蒲原	事業実施主体	新潟県 阿賀町（旧鹿瀬町、旧津川町、旧上川村）
関係市町村	阿賀町	管理主体	阿賀町
事業実施期間	H14～H19（6年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>① 位置等 阿賀町は、新潟県の東部に位置し、町は福島県と接している。町の中央を一級河川阿賀野川とその支流の一級河川常浪川が流れ、その沿岸の段丘を中心に開けた山間地域で、中心部は比較的平坦であり、周辺は飯豊連峰、越後山脈など急峻な山岳地帯に囲まれている地区である。</p> <p>② 森林の状況 当地区の森林面積は57,306haの民有林、32,041haの国有林からなり総面積の約94%を占めており、そのうち人工林は約11,297haで約19.7%で、間伐等の森林整備が必要となるIV～IX齢級の森林が5,664haで約9.8%となっている。 また、地区内の森林のうち、水源かん養保安林が14,593ha、土砂流出防備保安林が7,563ha指定されている。このため、森林の持つ水源かん養機能等の公益的機能を高度に発揮するための森林整備の実施が期待されている。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意義 当地区においては、これまでに約11,297haの人工林が造成され、森林蓄積は着実に増加しているものの、その多くは保育・間伐等が必要な段階にある。森林所有者等の森林整備に対する意欲の低下が懸念される中で、森林の有する公益的機能の高度発揮に対する町民の期待が高まっていたところである。 また、当地域には森林整備を効率的に実施するための林道等の路網が未整備であったことから、森林施業の遅れが目立っていた。 さらに、地域の山村生活環境が低い水準の地域が見られ、山村集落 環境の整備を進め、安心して活気のある定住環境の整備が望まれていた。 加えて、旧鹿瀬町実川地区においては、雄大な自然環境と集客が見込める文化財産に恵まれており、観光資源へのアクセスと周辺整備を図ることで、森林へのふれあいや保健休養に対する必要性に応えることが期待されていた。 こうした地域の林業振興や、自然・文化遺産を含めた地域振興を実現することを目的として、下記の事業を実施したものである。</p> <p>(事業概要) 森林整備 枝打 0.10ha、除・間伐 27.45ha 森林基幹道整備 西山日光寺線 車道幅員 5.0m 開設延長 5,691m 利用区域面積 1,447ha 大倉峠線 車道幅員 5.0m 開設延長 2,656m 利用区域面積 1,297ha 森林管理道整備 根元山線 車道幅員 4.0m 開設延長 2,089m 利用区域面積 331ha 集落基盤整備 用水施設 2施設（夏渡戸、荒沢） 林業集落内防災安全施設整備 火災防災施設 1基（船渡） 森林利用施設整備 実川線 延長 3,732m 実川溪谷森林公園 1施設 滞在施設整備 防火水槽 2基（青少年旅行村、鹿瀬温泉赤崎荘） 総事業費 1,852,063千円（当初総事業費2,529,500千円）</p>
----------	---

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成25年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 森林基幹道整備における計画の見直し（道整備交付金への移行）による総事業費の減少、費用対効果分析手法の見直しによる総便益の減少や、森林整備に要する費用を計上したことにより総費用が増加した。</p> <p>総便益 (B) 6,349,873千円 (事業採択時 6,449,361千円) 総費用 (C) 3,397,177千円 (事業採択時 2,493,759千円) 分析結果 (B/C) 1.87 (B/C) 2.59</p>
-------------------------	--

<p>② 事業効果の発現状況</p>	<p>① 林道開設により、路網密度が6.9mから7.4mとなり、開設前は森林整備地まで歩行していたが、自動車での到達が可能となるなど、森林へのアクセスが容易となった。</p> <p>② 林道開設により、利用区域内の間伐・保育作業及び適期を迎えた間伐がなされ、約5年間で約10haの利用間伐が実施されるなど森林施策がより推進された。</p> <p>③ 平成23年7月豪雨災害発生時における県道柴倉津川線の通行止に際して迂回路として機能している。(阿賀町旧上川村)</p> <p>④ アクセス林道の整備により、実川渓谷森林公園及びその先の飯豊山登山口への来訪者が増加している。また、落石による通行止も皆無となり安全な通行が確保され、住民による維持管理がなされるなど地域の活性化にもつながった。 また、地元上条小学校の遠足ルートに林道が活用されるなど、レクリエーション効果に寄与している。</p> <p>⑤ 公園整備により、身体障害者の入園が可能となり、国指定重要文化財である五十嵐邸、万治峠など周辺施設への入込客が増加するなど波及効果が認められている。</p> <p>⑥ 整備前は安定した給水ができず、断水することもあり、本事業で整備された水道施設により、安定給水が可能となり、集落の人口減少にも歯止めをかけることができた。</p> <p>⑦ 本事業で整備された防火水槽は、火災発生時の消火活動の時間短縮により、長年の要望が達成され、地域住民の安全安心な暮らしが確保できた。</p>
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>開設された林道は、阿賀町が定めた林道維持管理規程に基づき管理されている。地元住民による年1回以上の草刈や側溝掃除等が行われている。さらに工事による補修修繕により維持管理状況は適正であると判断できる。</p>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>森林整備が実施され林内が明るくなり、森林の景観が向上してきている。林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>高性能林業機械の導入が進む中で、町では補助制度を整備し、林業労働の軽減、森林施策コストの低減が図られている。また、森林施策への意欲が高まっており、今後も路網整備の重要性が再認識されており、林業専用道等への期待がより一層高まってきている。</p> <p>一方で、本林道を通じて山菜・きのこ採取のために地元住民や都市部来訪者が増加しており、森林に対する理解が深まりつつある。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>町のバイオマスタウン構想の着手により、木質バイオマス燃料施設が整備され、木材の有効利用が進んでいる。森林所有者からは森林施策の実施に対する意欲が徐々に増進されてきているが、急峻な地形が多い当町では、作業道の整備が経費的・技術的に不可能である事から、間伐等の実施状況が十分とは言えない状況である。このことから、町では作業道の整備が困難な場所でも、森林施策が増進するよう高性能林業機械による施策に対し、補助制度を整備した。その制度の需要も伸びてきているが、更なる森林所有者に対する森林施策実施の普及啓発等を行い、積極的な森林施策の実施を促進する必要がある。</p> <p>・ 地元の意見： 森林整備事業実施による土砂流出の防止、水源かん養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与している。(阿賀町旧上川村)</p> <p>林道の開設後は、沿線の森林への散策へ訪れる観光客が増加してきているとともに、森林災害等の早期発見に寄与している。(阿賀町旧鹿瀬町)</p> <p>アクセス道の整備により、都市部からの来訪者増加に伴うゴミの増加が問題となっており、利用者のマナー向上を普及啓発する必要がある。 (阿賀町旧鹿瀬町)</p>
<p>評価結果</p>	<p>・ 必要性： 森林整備の低コスト化や時間短縮を図る上で重要な路網整備や、用水・防災施設の整備による林業集落の利便性向上、そして、森林レクリエーション施設やアクセス道整備が求められている。また、森林整備実施による水源かん養機能の充実や、木材の有効活用を推進するとともに、林業集落の人口流出を防ぎ、更なる地域の活性化を推進することから、事業の必要性が認められる。</p> <p>・ 効率性： 施設整備に当たっては、現地の条件に応じた工種・工法が採用され、工期短縮、また、現地発生材の利用や切・盛土の抑制等によりコスト縮減が図られたことから、事業の効率性が認められる。</p> <p>・ 有効性： 林道整備により、森林へのアクセスが容易になり、作業効率の向上が図られ、今後もより一層の事業効果の発現が見込まれる。 整備した林道が災害時の迂回路として機能している。 用水施設整備や防火施設整備が図られ、集落の利便性が向上するとともに、安全・安心な暮らしが確保できた。 森林レクリエーション施設の整備により、都市部住民との交流が可能となり、自然環境の保全、地域の活性化が図られていることから、事業の有効性が認められる。</p>

## 便 益 集 計 表

事業名：森林居住環境整備事業

都道府県名：新潟県

地域(地区)名：東蒲原<sup>ひがしかんぼら</sup>

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	463,743	
	流域貯水便益	277,141	
	水質浄化便益	577,627	
山地保全便益	土砂流出防止便益	719,802	
	土砂崩壊防止便益	6,217	
環境保全便益	気候緩和便益	1,612	
	騒音軽減便益	45,879	
	飛砂軽減便益	43,522	
	風害軽減便益	31,102	
	霧害軽減便益	53,144	
	火災防備便益	23,627	
	保健休養便益	319	
木材生産等便益	木材利用増進便益	41,815	
	木材生産確保・増進便益	462,174	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	133,587	
	森林整備促進便益	2,026,587	
森林の総合利用便益	アクセス時間短縮等便益	158,835	
	ふれあい機会創出便益	213,115	
	フォレストアメニティ施設利用便益	165,995	
災害等軽減便益	災害時迂回路等確保便益	5,961	
	災害復旧経費縮減便益	142,417	
維持管理費縮減便益		269,986	
山村環境整備便益	生活用水確保便益	485,666	
総 便 益 (B)		6,349,873	
総 費 用 (C)		3,397,177	
費用便益比	$B \div C = \frac{6,349,873}{3,397,177} = 1.87$		

